

文芸

俳句

瀬の音を聞きつつ蟬蟀の眠るかに 踏青や山河はつねに新しき	一村の土巻きあげて春嵐	玉虫 栗扇
池田 逸子	土屋 美枝子	地引網のなごりの浜や初桜
つちふるや化学粉塵混り来る 花曇り化粧濃くして友に会ひ	伊藤 敬子	土屋 義昭
蒔かぬ種正体不明の若芽出る	今関 満喜子	内視鏡すんで安堵の雪解かな
対岸も此岸も花菜明りかな	江森 悅子	早川 勇
句想練る外は春塵の荒荒し	魚地 照子	戸村 静華
春風や白球あがり大歓声	川島 通則	平山 芳子
凹凸の根から蘖生まれけり	向後 寛	藤田 雅夫
春塵のあと西空のうす明かり	小松 藤男	押尾 輝子
路味噌や苦味の中の母の里	越川せつ子	田崎 尚美
春塵のあと春の埃に愚痴つきぬ	高梨 キヨ	さりげなく靴のサイズを聞きゆきて
抜けまじや春の埃に愚痴つきぬ	内藤 くに	離り住む子は送りくれたり
ガラス戸に落書きする子春の塵	伊藤 定男	ささやかな暮しに一首したためて
鈴木とし子	齊藤つね子	余生短かな日々を愛しむ
墓石をそつと拭ひてゐたり		春の塵吹く夕暮の村
亡き夫の命日今日は雨降るに		越川 義則
墓石をそつと拭ひてゐたり		ささやかな暮しに一首したためて
亡き夫の命日今日は雨降るに		病みる友の不安を思ふ
墓石をそつと拭ひてゐたり		西山満里子
亡き夫の命日今日は雨降るに		雨戸打つ春の嵐に一人居の
墓石をそつと拭ひてゐたり		病みる友の不安を思ふ
亡き夫の命日今日は雨降るに		芹川 初子
墓石をそつと拭ひてゐたり		咲き満つる桜大樹は校庭に
亡き夫の命日今日は雨降るに		閉校とともに誰に見せなむ
墓石をそつと拭ひてゐたり		島田ますみ
亡き夫の命日今日は雨降るに		夜半を覚め眼れぬままに思ひ出す
墓石をそつと拭ひてゐたり		童謡いくつ口遊みるつ
亡き夫の命日今日は雨降るに		そうしたことから、弘法
墓石をそつと拭ひてゐたり		大師の遺徳をしのび、大師
亡き夫の命日今日は雨降るに		信仰が生まれた。その代表
墓石をそつと拭ひてゐたり		が四国八十八箇所靈場巡礼である。石合大師には、

鈴木 利子

短歌

芦の角北浦越えて鹿嶋まで	早川 勇	青木 秀子
内視鏡すんで安堵の雪解かな	戸村 静華	あぜ道を散歩に行けば聞え来る
その中の妖しき彩や糸桜	平山 芳子	ピアノの音色に足どり軽し
藤田 雅夫	押尾 輝子	目の前の水の溜りを避けやうと
その中の妖しき彩や糸桜	田崎 尚美	ハンドル切るも勢い止まず
春の塵吹く夕暮の村	西山満里子	平山 芳子
越川 義則	西山満里子	さりげなく靴のサイズを聞きゆきて
ささやかな暮しに一首したためて	雨戸打つ春の嵐に一人居の	離り住む子は送りくれたり
病みる友の不安を思ふ	芹川 初子	ささやかな暮しに一首したためて
西山満里子	咲き満つる桜大樹は校庭に	病みる友の不安を思ふ
雨戸打つ春の嵐に一人居の	閉校とともに誰に見せなむ	西山満里子
病みる友の不安を思ふ	島田ますみ	夜半を覚め眼れぬままに思ひ出す
西山満里子	夜半を覚め眼れぬままに思ひ出す	童謡いくつ口遊みるつ
西山満里子	そうしたことから、弘法	そうしたことから、弘法
西山満里子	大師の遺徳をしのび、大師	大師の遺徳をしのび、大師
西山満里子	信仰が生まれた。その代表	信仰が生まれた。その代表
西山満里子	が四国八十八箇所靈場巡礼である。石合大師には、	が四国八十八箇所靈場巡礼である。石合大師には、

う博物館
こ博

62

古川の石合大師

いしあい



古川地区の西のはずれに石合という小高い山があり、その頂上にあるお寺の堂の周りにはお坊さんを刻んだ石仏がたくさん並んでいる。この石仏は、江戸時代に造立された大師像である。大師と言えば弘法大師が思い浮かぶが、ここにあるのはこの石仏は、弘法大師像である。弘法大師とは空海の別名で、平安時代初めに香川県で生まれ、中国へ留学して全て弘法大師像である。日本に真言密教を伝えた。真言密教を修した後、帰国し高野山金剛峰寺を開山し、日本に真言密教を伝えた。それだけでなく、困窮にあえぐ民を救い、井戸やため池などの土木工事を行うなど、各地に多くの伝説を残した。

そうしたことから、弘法大師の遺徳をしのび、大師信仰が生まれた。その代表が四国八十八箇所靈場巡礼である。石合大師には、

▶石合大師